

佛教大学がターニングポイント 理学療法士はやがて、 専門職大学の初代学長に

学校法人高知学園
高知リハビリテーション専門職大学学長

小嶋 裕さん

佛教大学 通信教育課程 社会学部 社会福祉学科 卒業



小嶋 裕 (おしま ゆたか)

1949年高知県春野町（現高知市）生まれ。71年高知リハビリテーション学院卒。理学療法士として病院に勤務した後、77年から2000年まで同学院教員。その後、聖カタリナ女子大学教授、徳島文理大学教授などを歴任した。その一方で、1991年に佛教大学通信教育課程を卒業し、高知医科大学や国際医療福祉大学の研究生となり2014年に博士号を取得した。2019年から高知リハビリテーション専門職大学学長。趣味のテニスで週2回ほど汗を流す。

教員と学生の二足のわらじ

昨年4月、全国初の専門職大学である高知リハビリテーション専門職大学（高知県土佐市）の初代学長に就任した小嶋裕さん。37歳の時の佛教大学への入学が「ターニングポイントでした」と語る。

小嶋さんは1987年佛教大学入学当時、現在の専門職大学の前身である高知リハビリテーション学院で教員を務めていた。同学院は専修学校のため、4年間学んでも学士号が得られない。大学院にも進めなかった。このため、同学院は佛教大学通信教育部と提携し、大学も卒業できる「併修制度」を導入した。

制度スタートの年、小嶋さんを含む教員数人が学生22人とともに佛教大学に入学した。学生支援が目的だ。小嶋さんも同学院の第1期卒業生で、理学療法士のパイオニアとして教育を受けたも

のの学士号はなかった。「地域福祉学を学ぶ目的もありました」。教員と学生の二足のわらじを履いた。

「私は『縁』と言っていますが、たくさんのお会いがありました」と振り返る。たとえば「オレンジ一班」。1年生の夏、スクーリングで大学に行き、体育の授業を受けた。そこでオレンジ一班という班の班長に。「そのメンバーとは今も連絡を取り合っています。介護福祉の事業所を立ち上げた方、ソーシャルワーカー、ジェット旅客機の機長、学校の先生など多彩。皆さん頑張って、夢を果たされました」

大学のレポート提出には苦労した。「文章を書くのが嫌いでしたが、4年間でしたくさん書き、苦手意識はなくなってきました」。教員として教え子に課すレポート課題にも影響し、「それまでは『高齢化社会について述べよ』のように漠然としていましたが、具体的に『高齢化社会がもたらす功罪を述べよ』とするよう心がけました」と話す。

縁（えにし）を大切に

佛教大学卒業の翌年から10年間、高知医科大学（現高知大学医学部）に研究生として所属し、2014年に国際医療福祉大学で博士号を取得。この間、高知リハビリテーション学院を離れ、聖カタリナ女子大学（現聖カタリナ大学）、徳島文理大学での教育にも携わった。「縁のお陰です。その研究者の道の出発点が佛教大学。入学していなければ、理学療法分野の仕事（研究）だけを続けていたかもしれません。関心はリハビリ医療や理学療法から、老人福祉、地域福祉、公衆衛生、老年社会学へと広がった。

恩師として、花田順信先生、中村永司先生、沢田健次郎先生の名を挙げた。「学問や研究に対する姿勢を学びました」。専門職大学の開設にあたり、再び母校に呼び戻された。リハビリテーションの理念を理解してほしいと「リハビリテーション専門職は健康に関する専門職である」「リハビリテーションは人がより健やかに生きていくための支援を担う」「リハビリテーションを信じる」ということは、人間らしさを信じる「こと」の三つのスローガンを掲げる。

最後に、後輩たちへメッセージを送る。「自分の目指す道を常に意識し、縁を大切にしてい。小嶋さんの生き方そのものである。」



B-ism

2020
December

写真 = ご本人提供